



目次

◆事務局からのお知らせなど..... 1
 ■自然保護の観点から日本学術会議会員の任命拒否に抗議する声明の発表について..... 1

■「2021年クロツラヘラサギ世界一斉センサス」へのご協力をお願い..... 1
 ■会員数..... 2

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護室より

■自然保護の観点から日本学術会議会員の任命拒否に抗議する声明の発表について

10月13日付で、(公財)日本自然保護協会、(公財)世界自然保護基金ジャパンと連名で、表記の意見表明を行いました。このことについて、賛否両方のご意見をいただきました。また、(公財)日本野鳥の会にはそぐわないとのご意見をいただきましたので、改めて声明をだしたことにに関して、その理由等をお伝えします。

今回の声明は、「自然保護の観点から」という立場で出したものです。自然保護活動は、常に科学的・客観的な事実の認識に基づいた活動であるべきものです。事実の認識は、自然科学はもとより社会科学、人文科学など広い分野の研究者により支えられているものです。日本学術会議は広い分野の研究者が集まり、科学を持って日本を支える組織です。自然保護に関する分野では、1965年に総理大臣あてに「自然保護について」という勧告を出していますが、これが自然環境保全地域や保護林制度につながるものでした。最近では環境省からの諮問を受けて「人口減少社会における鳥獣の保護管理のあり方」という答申を出したりもしています。社会的に様々な意見や立場があるなかで、自然保護活動も自由に対話し、合意形成に務めることにより行わなければならないと思います。その際の共通の足場となるものが科学的事実です。

当会は野鳥を中心とした自然保護活動を行っておりますが、その中には野鳥の生息地に悪影響を及ぼすような公共事業への反対など政府の方針に反対したり、計画の修正を求めたりするような活動も行っております。国の計画などは各省庁が専門家の意見も聞きながら作られていきますが、その際の専門家のメンバーが国の方針に従う委員のみで構成された場合や政権の方針に異を唱えるものが排除されるようでは、健全な議論ができません。

昨今、忖度という言葉をよく聞きます。自由な立場

から意見が言えない、そのような風潮が世間に蔓延するような社会では、自然保護活動も制約を受けかねません。今回は、研究者という限られた対象でしたがこの問題は、そこに日本の自然が守られていくためにも、NGOや行政担当者も含めて様々な立場の者が自由に意見を表明できる社会が大切であるとの考えから、今回の声明の発表になりました。

(自然保護室・担当理事/葉山 政治)

■「2021年クロツラヘラサギ世界一斉センサス」へのご協力をお願い

クロツラヘラサギはヘラ状のくちばしを左右に振りながら餌をとるトキ科の野鳥です。分布が東アジアに限られ、個体数が少ないことから、環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に挙げられています。

この鳥の保全のために、東アジア各国の野鳥保護団体が協力して、毎年1回「クロツラヘラサギ世界一斉センサス」が行われています。この調査は「香港バードウォッチング協会」(HKBWS)が事務局となり、1994年以降実施されており、中国、台湾、韓国、タイなどから多くのバードウォッチャーが参加しています。この調査によって、世界でのクロツラヘラサギの個体数が順調に増えていることが明らかになり、越冬地の分布や生息環境など保全に必要な情報が集まっています。日本では「日本クロツラヘラサギネットワーク」(事務局: NPO 法人 くすの木自然館)が中心になり参加を呼びかけ、当会も協力しています。

2020年に行われた一斉センサス(1月17日~19日実施)では、世界中で4,864羽、日本では、1都9県、62か所、70名を超える参加があり、計544羽が観察されました。

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/bfs-pj/bfs-census2020/>

日本へのクロツラヘラサギの渡来数は年々増加傾向にあり、以前は九州が中心だった越冬地が西日本にも広がって来ています。しかし、これまで東日本での記録は少なく、東京都、茨城県以外ではあまり記録され

ていません。

そこで、皆さんのお住いの地域でも、クロツラヘラサギを観察された場所があれば、その情報をぜひ自然保護室までお寄せ下さい。

【参加の方法】

調査はダブルカウントを防ぐために、世界一斉に、以下の3日間に行います。皆さんのフィールドで、この期間のいずれかにクロツラヘラサギを見かけたら、自然保護室までお知らせ下さい。

いただいた情報は、日本クロツラヘラサギネットワークと共有し、香港バードウォッチング協会に報告します。ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

●世界一斉調査の調査日

2021年1月15日(金)～17日(日)

●お知らせいただきたい情報

- (1) 観察場所の地名
- (2) 観察した日
- (3) 個体数(成鳥/幼鳥もわかれば、区別して下さい)
- (4) 観察された方のお名前、ご連絡先
- (5) 観察場所の環境(干潟、河川など)
- (6) クロツラヘラサギの行動(採食、休息など)。写真を撮影された場合、添付などでお送り下さい。

●お問い合わせ及び送付先

日本野鳥の会 自然保護室

Eメール: hogo@wbsj.org

FAX: 03-5436-2635

TEL: 03-5436-2633 (※電話受付 平日 13-15時)

(自然保護室/山本 裕)

■会員室より

■会員数

12月1日時点の会員数は33,663人で、先月と比べ11人増加しました。

11月の入会・退会者数(表1)をみますと、入会者数は退会者数より7人少なくなっています。入会者数は175人で、前年同月の入会者数163人と比べ12人増加しました。また、退会者数は182人で、前年同月の退会者数177人と比べ5人増加しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 11月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	16 人	11 人
総合会員(おおぞら会員)	35 人	42 人
本部型会員(青い鳥会員)	37 人	30 人
支部型会員(赤い鳥会員)	59 人	70 人
家族会員	28 人	29 人

合計	175 人	182 人
年度累計	995 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数(12月1日時点)

都道府県	会員数	前月比
北海道	1,629 人	-5 人
青森県	231 人	-1 人
岩手県	364 人	0 人
宮城県	493 人	5 人
秋田県	252 人	0 人
山形県	208 人	1 人
福島県	565 人	-7 人
茨城県	835 人	-4 人
栃木県	703 人	-4 人
群馬県	585 人	-2 人
埼玉県	2,004 人	-2 人
千葉県	1,525 人	0 人
東京都	4,686 人	28 人
神奈川県	3,243 人	2 人
新潟県	353 人	2 人
富山県	194 人	-2 人
石川県	272 人	-1 人
福井県	218 人	-1 人
山梨県	262 人	-3 人
長野県	816 人	1 人
岐阜県	448 人	0 人
静岡県	1,243 人	2 人
愛知県	1,477 人	6 人
三重県	426 人	1 人
滋賀県	295 人	-1 人
京都府	788 人	3 人
大阪府	1,943 人	-6 人
兵庫県	1,259 人	-3 人
奈良県	485 人	4 人
和歌山県	191 人	1 人
鳥取県	206 人	-1 人
島根県	184 人	4 人
岡山県	537 人	-1 人
広島県	555 人	5 人
山口県	333 人	0 人
徳島県	311 人	3 人
香川県	175 人	-1 人
愛媛県	344 人	0 人
高知県	116 人	-1 人
福岡県	1,224 人	-3 人
佐賀県	190 人	0 人
長崎県	206 人	0 人
熊本県	389 人	-1 人

大分県	220 人	3 人
宮崎県	241 人	-2 人
鹿児島県	310 人	0 人
沖縄県	92 人	-1 人
海外	10 人	-2 人
不明	27 人	-5 人
全国	33,663 人	11 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（12月1日時点）

支部	会員数	前月比
オホーツク支部	250 人	1 人
根室支部	76 人	1 人
釧路支部	149 人	0 人
十勝支部	170 人	-1 人
旭川支部	78 人	0 人
滝川支部	42 人	-1 人
道北支部	25 人	0 人
江別支部	20 人	0 人
札幌支部	292 人	1 人
小樽支部	61 人	0 人
苫小牧支部	156 人	0 人
室蘭支部	132 人	1 人
道南檜山	62 人	-2 人
青森県支部	114 人	0 人
弘前支部	112 人	1 人
秋田県支部	238 人	-1 人
山形県支部	188 人	0 人
宮古支部	83 人	-1 人
もりおか	155 人	3 人
北上支部	97 人	-1 人
宮城県支部	460 人	4 人
ふくしま	144 人	-1 人
郡山支部	155 人	-2 人
白河支部	30 人	-1 人
会津支部	55 人	0 人
奥会津連合	8 人	0 人
いわき支部	104 人	-2 人
福島県相双支部	16 人	0 人
南相馬	13 人	0 人
茨城県	757 人	-2 人
栃木県支部	675 人	-9 人
群馬	502 人	0 人
吾妻	43 人	0 人
埼玉	1,498 人	3 人
千葉県	929 人	-3 人
東京	2,639 人	14 人
奥多摩支部	765 人	2 人
神奈川支部	2,181 人	-8 人
新潟県	257 人	1 人
佐渡支部	33 人	2 人
富山	174 人	-1 人
石川	255 人	-1 人
福井県	213 人	-1 人
長野支部	408 人	1 人

軽井沢支部	160 人	0 人
諏訪支部	220 人	1 人
木曾支部	21 人	0 人
伊那谷支部	68 人	0 人
甲府支部	178 人	-2 人
富士山麓支部	60 人	1 人
東富士	60 人	0 人
沼津支部	143 人	0 人
南富士支部	240 人	0 人
南伊豆	38 人	0 人
静岡支部	323 人	1 人
遠江	375 人	-1 人
愛知県支部	1,090 人	6 人
岐阜	435 人	2 人
三重	353 人	1 人
奈良支部	436 人	1 人
和歌山県支部	197 人	-1 人
滋賀	286 人	0 人
京都支部	732 人	3 人
大阪支部	1,794 人	-6 人
ひょうご	962 人	1 人
鳥取県支部	221 人	0 人
島根県支部	174 人	3 人
岡山県支部	509 人	-1 人
広島県支部	473 人	6 人
山口県支部	309 人	0 人
香川県支部	137 人	0 人
徳島県支部	330 人	2 人
高知支部	99 人	-1 人
愛媛	323 人	-1 人
北九州支部	272 人	0 人
福岡支部	523 人	-3 人
筑豊支部	231 人	-2 人
筑後支部	158 人	0 人
佐賀県支部	235 人	0 人
長崎県支部	198 人	0 人
熊本県支部	382 人	-1 人
大分県支部	207 人	4 人
宮崎県支部	236 人	-2 人
鹿児島	284 人	0 人
やんばる支部	64 人	0 人
西表支部	44 人	0 人
	28,394 人	8 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（会員室／厚目 葉子）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。あわただしい師走となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年はコロナ禍により、例年と環境が大きく変わった一年でした。来年はこの状況が落ち着き、皆が安心して過ごせる日が来るよう祈っております。

来年もなお一層のご愛顧のほど心よりお願い申し上げます。良いお正月をお過ごしください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当会においても在宅勤務を採用しており、当面の間、各支部への紙版の発行は停止しております。

■支部ネット通信は支部の代表の方に電子メールでも配信をしています。電子メールでの配信を希望される支部の代表の方は下記メールアドレスまでお気軽にお申し込みください。

日本野鳥の会

支部ネット通信

第199号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2020年12月23日

◆担当

総務室 総務グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org
